

一般社団法人日本民俗建築学会会長挨拶

角 幸博

この度、学会創立 70 周年の記念すべき年に、5 代目会長に就任いたしました。

4 代目会長杉本尚次先生(以下敬称略)は、当学会初めての選挙により選出された会長で、16 年間の永きにわたり、本会の運営・発展に努められてきました。杉本会長が築かれましたこれまでの本会の方向性を大切に維持しつつ、広い視野でさらなる発展に励みたいと考えております。

一般社団法人日本民俗建築学会は、1950 年に石原憲治の主導によって創設されました。従来の日本建築史研究が、社寺・宮殿・城郭建築などを主流とし、住文化との結びつきをはじめ、関連する諸分野との交流が不十分であることを背景に、時代の文化を支えている民衆の生活文化としての建築の探究の必要性が本会創立の端緒となっています。

1932 年に発足した民家研究会の今和次郎、柳田國男、竹内芳太郎、蔵田周忠、小倉強、大熊喜邦、藤島亥治郎等諸先学による業績を吸収しつつ、幅広い学際的な民家研究をめざして創設されたものです。その後 2 代目会長竹内芳太郎、3 代目会長佐藤重夫が歴任し、4 代目会長杉本尚次を経ての 5 代目就任となります。

1974 年に民俗建築学会から日本民俗建築学会と改称し、さらに 2016 年に一般社団法人日本民俗建築学会に移行し、広く民俗建築に関する学術文化の向上と普及発展に寄与するとともに、関連する分野が密接に交流・協力し、人類の未来において理想とする住環境を広い視野に立って追求することを目標とする学会としてスタートしたといえます。

国内・海外のフィールドワークを基礎とする調査研究手法は、本学会の特色の一つでもあり、また地域に育まれた伝統文化を尊重し、科学的に正しく評価して、民俗建築の保存・再生・活用という、過去・現在・未来を視野にいれ、民俗建築をいかに継承し現代に生かすことができるかなどにも注目しております。

本学会の各分野の枠をこえた幅広い自由な学際的雰囲気は、他分野では得がたい魅力ある特色の一つであり、この特質を生かし、さらには「新しい生活様式」にも対応しつつ、これまでの民俗建築の調査・研究を継承・発展させ、住文化の発展に寄与することに努力しつつ、さらなる飛躍に向けてチャレンジしていきたいと考えております。